

港湾の施設の技術上の基準・同解説（H19.4）改訂の正誤表

項目	誤	正
第3編 作用及び材料強度条件編 第4章 地震 1.3.2 レベル2対象地震 P.354	<p>なお、港湾の施設の中には、地震動に引き続いて津波が到来するような状況を想定し、その場合の性能が規定されるようなものも存在する。このとき、津波と組み合わせる地震動は、必ずしも、当該港湾で想定される最も強い地震動（レベル2地震動）でなくても良い場合がある。例えば、ある港湾で、内陸活断層地震と海溝型地震の両者が想定され、内陸活断層地震に対してより強い揺れが想定されるものとする。このとき、内陸活断層地震は津波を伴わないので、内陸活断層地震による地震動の直後に津波が到来するといった状況を想定することは不合理であり、過大な投資につながる。そこで、レベル2地震動以外に、津波に先行する地震動を評価する必要がある場合がある。その場合の地震動の評価方法は、対象地震がレベル2対象地震から津波の原因となる地震に変更されるだけであって、以下に述べる評価方法はそのまま適用することができる。</p>	<p>なお、設計津波を設定し、設計津波とそれに先行する地震動に対して性能を規定する場合、設計津波と組み合わせる地震動は、必ずしも、当該港湾で想定される最も強い地震動（レベル2地震動）ではない場合がある。例えば、ある港湾で、内陸活断層地震と海溝型地震の両者が想定され、内陸活断層地震に対してより強い揺れが想定されるものとする。このとき、内陸活断層地震は津波を伴わないので、内陸活断層地震による地震動の直後に津波が到来するといった状況を想定することは不合理であり、過大な投資につながる。そこで、レベル2地震動以外に、設計津波に先行する地震動を評価する必要がある場合がある。その場合の地震動の評価方法は、対象地震がレベル2対象地震から設計津波の原因となる地震に変更されるだけであって、以下に述べる評価方法はそのまま適用することができる。</p>
第3編 作用及び材料強度条件編 第4章 地震 1.3.6 表層地盤の地震応答計算 P.361	<p>1. 1. 1 表層地盤の地震応答計算</p>	<p>1. 3. 6 表層地盤の地震応答計算</p>
第3編 作用及び材料強度条件編 第4章 地震 1.4 施設の性能照査で考慮する地震動の空間的変動 P.361	<p>1. 2 施設の性能照査で考慮する地震動の空間的変動</p>	<p>1. 4 施設の性能照査で考慮する地震動の空間的変動</p>